

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 4 月 8 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22531030

研究課題名（和文）薬学 6 年制における精神科領域の専門教育カリキュラムの構築

研究課題名（英文）Creating a professional curriculum for the six-year pharmaceutical sciences education system for the Department of Psychiatry

研究代表者

齋藤 百枝美（SAITO MOEMI）

帝京大学・薬学部・准教授

研究者番号：70439561

研究成果の概要（和文）：薬学部 5 年生に対し精神疾患に関する 10 コマのカリキュラムを作成し評価した。この結果、学生の偏見・差別の意識の変容および服薬指導の自信度の向上が認められ、カリキュラムの有用性が明らかとなった。ニコチン依存症患者への認知行動療法と動機付け面接法を用いた専門性の高い禁煙指導のカリキュラムを構築し報告した。長期実務実習中に薬学生が示す心理的ストレスおよび自己効力感の関連について調査し報告した。1 年生に対して薬物乱用防止教育の構築を行い有用性が確認された。

研究成果の概要（英文）：

We created and assessed a curriculum of ten classes on mental diseases for fifth-year pharmacy students. As a result, we observed correction of the students' biased views and prejudices as well as improvement in their confidence in providing medication counseling, suggesting the usefulness of the new curriculum. We created and report the results of a specialized smoking cessation education program involving nicotine-dependent patients. The program employed cognitive-behavior therapy and motivational interviewing. We conducted and report the results of a survey on the relationship between mental stress and self-efficacy experienced by pharmacy students during their long-term practical training. We established a substance abuse prevention education program for first-year students and verified its usefulness.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：薬学教育・精神疾患・カリキュラム・心理教育

1. 研究開始当初の背景

現在、精神疾患患者数は 323 万人を超え 5 大疾患とされ、重点的な対策が求められている。さらに、精神保健福祉施策は「入院医療中心から地域生活中心へ」という考え方にに基づき展開されており、今後薬剤師が精神疾患患者と接する機会が多くなると考えられる。このような状況において、薬学 6 年制ではチーム医療の担い手として高度な専門性を持つ薬剤師の養成が求められている。特に薬物療法が基盤となり、さらに再発予防のためにはアドヒアランスの向上が欠かすことができないため精神科チーム医療の中における薬剤師の役割は大変重要である。しかし、精神科領域については、薬学教育モデル・コアカリキュラムにおいてもわずかな記載にとどまり、実務実習にも組み込まれていない状況にあった。

2. 研究の目的

本研究では、精神疾患患者への偏見を軽減し、正確な症状や治療法に関する知識を修得し、精神疾患患者指導を実施できる薬学生を養成するためのカリキュラムを作成することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は医学部、看護学部の講義、実習を参考として臨床心理士の意見も取り入れ、薬学部独自の精神科領域の講義、実習カリキュラムを構築した。

薬学部 5 年生に対して、精神疾患の基礎、バーチャルハルシネーション（統合失調症の幻聴の疑似体験ができるソフト）体験、バーチャル AD/HD 体験、薬物療法、薬物療法の評価方法（薬原性錐体外路症状の評価：DIEPSS, うつ病評価尺度：HAM-D, 双極性障害の躁状態の評価尺度：Young, 統合失調症の陽性陰性症状の評価尺度：PANSS, 認知症の評価：長谷川式などの DVD を利用した講義）、認知行動療法に基づく服薬指導方法、服薬自己管理モジュール、心理教育などから構成した 90 分 10 コマのカリキュラムを構築した。精神に疾患や障害を持つということは、学生にとってイメージ化しづらいため、DVD など視覚による方法を積極的に利用し、学生の理解を深めた。また、講義前後で、精神疾患患者への服薬指導の自信度、社会的距離、SD (semantic differential) 法を用いて学生の精神疾患患者に対する偏見・差別の意識やイメージ変化に関する評価を実施した。

ニコチン依存症も精神疾患であるため、認知行動療法と動機付け面接法を用いた専門性の高い禁煙指導方法についてのカリキュラムを構築し、アンケートによる評価を実施した。

さらに、病院実務実習中（精神科病棟実習を含む）に示す薬学生の心理的ストレス反応と自己効力感との関連について調査した。

薬学部 1 年生に対して、精神疾患である依存症が背景にある薬物乱用防止のカリキュラムおよび心の健康（精神疾患について正しい知識を修得し、精神疾患の早期診断・早期治療への理解を進め、さらにストレスを軽減する方法を修得する）をテーマとしたカリキュラムを構築し、アンケートによる評価を実施した。

4. 研究成果

5 年生の精神疾患に関するカリキュラムでは、認知行動療法に基づく服薬指導について学生の理解を高めるために、ロールプレイによる認知行動療法を用いた服薬指導をビデオ撮影し、その視聴を通して統合失調症患者に対するベッドサイドの服薬指導を学べるよう工夫した。

本カリキュラムの評価において、高血圧症患者と統合失調症患者への服薬指導への自信度を比較すると、講義前後において統合失調症患者への服薬指導の自信度は有意な低下が認められた。しかし、講義後に統合失調症患者への服薬指導に対する自信度は有意に増加し、さらに、服薬指導する際の心の負担感について有意な低下が認められた。また、SD 法による精神疾患のイメージは有意に良いイメージへ変化した。このため、本カリキュラムは精神疾患患者への服薬指導の自信度の向上やイメージ変化に有用であると考えられる。しかし、社会的距離は講義前後で有意差が認められず、偏見・差別の意識変化にはいたらなかった。

禁煙指導では、タバコの害について正しく理解するとともに、ニコチン依存症患者に対する認知行動療法、動機付け面接法による禁煙指導をロールプレイで実施し、禁煙指導に対する自信度の向上が認められた。

病院における長期実務実習中に薬学生が示す心理的ストレスおよび自己効力感の関連について調査し、1 日間の精神科病棟実習が学生の自己効力感を向上させること、POMS による抑うつー落ち込みの点数が高い学生は自己効力感が低い傾向にあることが明らかとなった。

薬学部 1 年生に対する薬物乱用防止カリキュラムは、乱用薬物に対する認識の変化とともに、医療人としての規範意識を高めたことが明らかとなった。

以上、高度の専門性をもって精神科チーム医療へ参画できる薬剤師の養成は社会的意義が極めて高い。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ①齋藤百枝美, 土屋雅勇, 渡邊真知子, 丹羽真一: 病院実務実習中に示す薬学生の心理的ストレス反応と自己効力感との関連, 医薬品情報学, (査読あり) 受理, 2013.
- ②齋藤百枝美: 特集 生活の視点から薬物療法をとらえなおす: 薬にできること・できないこと, 第3章順調でない経過は薬のせい? 治療がうまくいかないとき, 薬物療法をどうとらえ, どう突破口を開くか: 薬剤師の立場から, 精神科臨床サービス, (査読なし) 12(1), 65-69, 2012. 1.
- ③齋藤百枝美, 野館敬直, 丸山桂司, 土屋雅勇, 渡邊真知子, 丹羽真一: 認知行動療法と動機付け面接法を用いた禁煙指導実習の構築, YAKUGAKU ZASSHI, (査読有り) 132(3), 369-379, 2012.
- ④齋藤百枝美: 副作用症状の原因薬剤と対処法 悪性症候群, 月刊薬事, (査読なし) 53(13), 2061-2066, 2011. 12.
- ⑤齋藤百枝美: 服薬アドヒアランスを高める心理教育と服薬自己管理モジュールの実際, 医薬ジャーナル, (査読なし) 47(1), 104-109, 2011.
- ⑥齋藤百枝美, 渡邊真知子, 渡部多真紀, 渡辺茂和, 土屋雅勇: 喫煙に対する薬学生の意識調査, 日本禁煙学雑誌, (査読あり) 5(6), 158-164, 2010. 12. 22.
- ⑦齋藤百枝美, 渡邊真知子, 土屋雅勇, 丹羽真一: 薬学部6年制に伴う新カリキュラム導入に関する検討—統合失調症患者に対する社会的態度と服薬指導に及ぼす影響—, 日本社会精神医学会雑誌, (査読有り) 18(3), 330-340, 2010.
- ⑧齋藤百枝美, 渡邊真知子, 渡部多真紀, 土屋雅勇, 丹羽真一, 井上圭三: バーチャルセッションシミュレーターを用いた抗精神病薬の鎮静体験教育の試み, 最新精神医学, (査読有り) 15(1), 85-90, 2010.
- ⑨齋藤百枝美: 副作用マネジメント—⑤喫煙患者への対応, 薬局, (査読なし) 61(1), 南山堂, 104-108, 2010.
- ⑩齋藤百枝美, 山本佳子, 丹羽真一: アドヒアランスの向上を目指して—患者および家族への心理教育による服薬指導—, 薬局, (査読なし) 61(1), 南山堂, 114-121, 2010.

[学会発表] (計 15 件)

- ①齋藤百枝美: 薬学生に対する薬物乱用防止教育の構築と有用性の評価, 第133年会日本薬学会, 2013. 3. 30. 横浜
- ②中村英里, 齋藤百枝美: 薬学生を対象とした薬物乱用に関する意識調査, 第133年会日本薬学会, 2013. 3. 30. 横浜

- ③渡辺茂和, 齋藤百枝美: 大学看護科4年生の「薬物乱用」に対する意識調査, 第133年会日本薬学会, 2013. 3. 29. 横浜
- ④齋藤百枝美: 精神科領域の新カリキュラム導入に伴う統合失調症患者に対する薬学生の意識調査, 第22回日本医療薬学会年会, 2012. 10. 27-28. 新潟市
- ⑤齋藤百枝美: 薬学生が病院実務実習中に示す心理的・生理的ストレス反応と自己効力感との関連 (2), 第132年回日本薬学会, 2012. 3. 29. 札幌
- ⑥片桐幸子, 齋藤百枝美, 渡邊真知子: 帝京大学医学部附属病院における長期実務実習の構築とその評価, 第132年回日本薬学会, 2012. 3. 29. 札幌
- ⑦齋藤百枝美: ニコチン依存症治療における精神科薬剤師の役割, アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 2011. 10. 13-15. 名古屋
- ⑧齋藤百枝美: 薬学生が病院実務実習中に示す心理的・生理的ストレス反応と自己効力感との関連, 第21回日本医療薬学会年会 講演要旨集, p388, 2011. 10. 1-2. 神戸
- ⑨齋藤百枝美: 認知行動療法と動機付け面接法を用いた禁煙指導実習の導入, 医療薬学フォーラム 2011 第19回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2011. 7. 9-10. 旭川
- ⑩齋藤百枝美: 長期実務実習前後における学生の自信度の変化および事前実務実習の評価, 第131年回日本薬学会, 2011. 3. 31. 静岡
- ⑪齋藤百枝美: 喫煙に対する薬学生の意識調査 (2) —禁煙教育と社会的ニコチン依存度の相違—, 第20回日本医療薬学会年会, 2010. 11. 14. 幕張
- ⑫岸本 成史, 齋藤百枝美: 長期実務実習前のコミュニケーションスキル向上を目指した Simulated Patient を相手とした服薬指導シミュレーションの試み, 第20回医療薬学会年会, 2010. 11. 14. 幕張
- ⑬齋藤百枝美: 喫煙に対する薬学生の意識調査 (1) —学年間における認知の相違—, 日本禁煙学会, 2010. 9. 19-20. 松山
- ⑭齋藤百枝美: 薬学生の学年間における喫煙に対する認知の相違, 医療薬学フォーラム 2010 第18回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2010. 7. 10-11. 広島
- ⑮齋藤百枝美: 精神科専門薬剤師と TDM, 第27回日本 TDM 学会・学術大会, 2010. 6. 27. 札幌

[図書] (計 1 件)

- ①大井一弥ほか編集, 齋藤百枝美, 丹羽真一: 入院外来薬物療法プラクティス, 第7章 49. 不安障害, p 538-549, 南山堂, 東京, 2013. 3. 30.

[産業財産権]

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

齋藤 百枝美 (SAITO MOEMI)
帝京大学・薬学部・准教授
研究者番号：70439561

(2) 研究分担者

丹羽 真一 (NIWA SHIN-ICHI)
福島医大・神経精神医学講座・教授
研究者番号：30110703
渡邊 真知子 (WATANABE MACHIKO)
帝京大学・薬学部・教授
研究者番号：30338694

(3) 連携研究者

()
研究者番号：